


本部だより

●第 25 号

 マーシャル方面遺族会

●環礁・本部だより第 25 号 ●発行日：平成 24 年 2 月 1 日 ●発行人：黒川誠
●マーシャル方面遺族会本部：〒142-0051 東京都品川区平塚 3-4-17
●電話 03-3783-8382 ●FAX03-6410-4420 ●振替番号 00100-0-93487



●パンジー（ちぎり絵：岡野智津子作品）

謹賀新年

平成二十四年



本部役員及び篤志会員

相談役

大給湛子

会長

黒川 誠

幹事

高林芳夫

山口良二

草場寛

晝間志津子

岡野智津子

監査役

内海淑子

篤志会員

徳原徳子

山村 要

グレッジ・ドボルザーク

平成24年度 慰霊祭・総会・直会のご案内



黒川 誠
会長

会員、会友の皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年の慰霊祭・総会・直会を次の通り行います。皆様お誘い合わせてご参加下さいませよう、お待ちしております。

■慰霊祭

日 時 平成24年3月31日（土）

◇本誌23号予定表では「4月7日（土）」となっておりますが、会場の都合により変更しておりますのでくれぐれもお間違いなくご予約下さい。

受 付 靖国神社参集殿前テント・午前

9時より開始致します。

◇必ず受付にて出席者名簿とご照合の上、参集殿にお集まり下さい。本会専用の桜のリボンワッペンをお貼りになった方が昇殿参拝が出来ます。

慰霊祭

午前10時（ご本殿）

■定期総会

慰霊祭終了後、昨年と同じく「靖国会館」前にて記念撮影を行います。その後、同館2階「田安の間」にて正午より開催致します。

■直会（なおらい）

総会終了後、その場所が会場となります。閉会は午後3時の予定です。

●お願い

◇同封の出欠はがきには、欠席の方も各項目にご記入の上、2月末日まで本部に到着するようにご投函下さい。

◇本会への年会費（3千円）、寄付金、直会費（一名4千5百円）、玉串料（一名5百円）は、同封の郵便振替用紙にて2月末日までにお送り下さい。

◇受付は毎年混雑致します。そのため受付での現金の取り扱いが出来ませんのでよろしくお願い致します。

●宿泊希望の方へ

◇「九段会館」は昨年の震災により閉鎖されたため利用出来ません。よろしければ前号でご紹介致しました「ホテル・ヴィラフォンテーヌ」は靖国神社にも近く、ご推薦致します。ご自身で早めに予約して下さい。

◇「ホテル・ヴィラフォンテーヌ」住所〒101-0065

東京都千代田区西神田2-4-4

電話番号03-3222-8880

ご予約は「総合予約センター」電話番号03-5339-1200です。「インターネット予約」は、<http://www.hvfi.jp>です。

平成23年度・マーシャル方面遺族会
永代神楽祭（命日祭）斎行

例年通り本会の永代神楽祭は7月15日、靖国神社「みたま祭第二日祭」と同



日になりました。梅雨明けの夏本番の厳しい暑さのもとで、当日は遠路より富田、吉田、櫛崎様を始め何時もの顔ぶれで昇殿参拝を致しました。写真は、左より星野綾子・小田原由樹・晝間志津子・小田原利子・富田キミ・内海淑子・黒川誠・吉田正明・櫛崎馨・佐藤知子の皆さん。

当会の命日祭として平成14年7月に永代神楽祭を申し込むときに、命日祭を何日にするか非常に難しく決めかねました。それは、マーシヤル、ギルバート諸

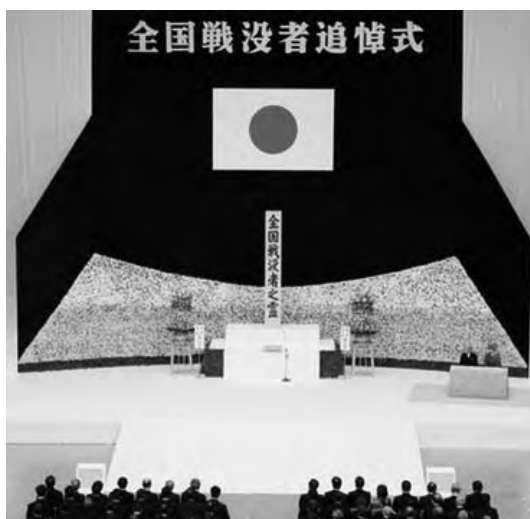
島で戦没された英霊は、クエゼリン、ルオット、ブラウン、ウオツゼ、マロエラップ、ミレー、タラワ、マキンその他の島々で戦死された日がそれぞれに異なるので、当時の晝間副会長と相談した結果、靖国神社のみたま祭第2夜（15日）を命日祭と定め、山田道行命、秋山門造命、柴崎恵次命、西田祥實命はじめ3万5千余柱を奉慰顕彰することになりました。これより毎年7月15日を「マーシヤル方面遺族会永代神楽祭命日祭」と定めました。お一人でも多く参加されて昇殿参拝されることを願っています。

全国戦没者追悼式

66回目の終戦の日を迎えた平成23年8月15日、政府が主催する全国戦没者追悼式が東京の日本武道館で開かれました。

天皇、皇后両陛下のご臨席のもと、菅直人首相や全国各地の遺族ら約6100人が参列し、さしも広い会場も満席となったところで開会されました。

式典は正午前に始まり、両陛下のご入場後、参列者全員で国家を斉唱、黙祷の



後、天皇陛下のお言葉がありました。遺族代表は父をフィリピン沖で失った河西佐智子さん（甲府市・67歳）が追悼の辞を述べられました。出席者で最年長は、夫が中国雲南省で戦死した馬場宮子さん（東京都・97歳）。

祭壇は一般席より高くなっているの通路は斜面になっています。献花をする人たちは殆どが高齢なので祭壇への昇り降りが見えていて気の毒な位でした。これからも毎年行われる追悼式にいつまで参加出来るであろうかと自問自答しながら武道館を後にしました。

平成23年度

東京都戦没者追悼式

東京都では、亡くなられた多くの犠牲者のご冥福を祈り、平和を願う都民の強い決意を表すため、8月15日の戦没者を追悼し、平和を祈念する日に、追悼式を文京シビックホールで実施しています。

当日は、黒川会長の代理として出席しました。11時45分開式し、国家斉唱、石原慎太郎都知事の式辞に続き、正午の時報に合わせて黙祷。会場壁面のスクリーンに映し出された武道館の映像を見ながら天皇陛下のお言葉を聴きました。

東京都議会議長、遺族連合会会長、遺族代表による追悼の言葉に続き、献花(都知事以下、参列遺族)が行われ、1時30分に閉会となりました。(草場)

原稿募集

本会のホームページ(H.P.)が新年からスタートの予定です。本誌では本部からのお知らせを中心に編集して来ましたが、次号からは新しい時代の「環礁」として出発するために、会員の皆様から次

平成23年度

靖国神社秋季例大祭

昨年10月18日当日祭が行われ、当会も出席致しました。

当日は秋晴れとはいえ、ご本殿は冷え冷えとして厳肅な雰囲気にもまれ、例年通りの式次第にて滞りなく行われました。

平成24年度

現地慰霊巡拝のお知らせ

平成24年の現地慰霊については11月3日(9日)に実施の予定です

慰霊巡拝の島は主碑のあるクエゼリン島及びルオット島です。

今回よりクエゼリン島への入国許可申請の方法が変わりましたので早めの申請を致したく、現在旅行会社と打ち合わせ

のようなテーマで原稿を頂戴したいと思えます。

●英霊とご家族の写真とコメント

●英霊のご遺品(手紙、手帳など)

●会員の皆様がおまとめになった戦史、絵画、俳句、皆様の近況を本部にお送り

下さい。本誌とHPに振り分けて大事に

中です。申請書類が揃い次第、厚生労働省に提出致します。

昨年11月現在の参加希望者は16名です。(高林)

お詫びと訂正・追加情報

本誌24号で記載漏れがありました。

●「慰霊祭出席者」欄で石川正興さん(香川県)が、「寄付者芳名」欄で柳村摩耶子さん(高知県)のお名前が漏れておりました。お詫び申し上げます。

●栗林徳五郎さん(東京都)より1万円、村田恵子さん(千葉県)より5千円のご寄付がありました。

●本年度の慰霊祭は3月31日(土)に変更されております。

掲載させて戴きます。

今回はその雛形として編集部に保存していた資料と役員からの原稿でまとめてみました。ご送付戴く写真は大事なものが多くと思いますので、複写をお願い致します。HPのアドレスも載せていますのでご利用下さい。(編集部)



元気で百歳の誕生日を迎えた母と

百歳の誕生日

母、内海静枝は明治 44 年 11 月 1 日生まれて百歳を迎えました。母が長生きしたのは二人の弟が若くして戦死しておりますので、その命を貰ったのではないかと考えています。総理大臣と東京都知事より賞状と記念品を授与されましたのご報告致します。(内海淑子)



MIBFA

THE MARSHALL ISLAND
WAR-BEREAVED FAMILIES
ASSOCIATION OF JAPAN
SINCE 1944 ~

本会のオフィシャルロゴと ドメイン名

本会 HP のドメイン名は、マーシャル方面遺族会の欧文の頭文字を取った「ミブファ」と玉砕日「昭和 19 年 2 月 6 日」を組み合わせて作りました。

9 ページ下段でそのスタイルをご覧ください。

クェゼリンから送られた写真

夫（故岡野正文）の兄（岡野良之・第六通信隊）はクェゼリンから数葉の写真を送ってくれました。立膝の形が主人とまったく同じで今更ながら感心しています。珍しいと思ひ巻末に「赤紙」を載せました。召集令状は真赤な紙と思ひましたがエンジ色でした。その時々で紙の色合いは変化していたのでしょうか。原寸は天地 15 センチです。(岡野智津子)



浮田元会長様が亡くなられてから数年後、奥様から頂戴した浜木綿の球根ですが、何年もの間葉っぱだけで庭の片隅に忘れられていました。昨年頃から動きがあり、今年は立派な大輪の花をつけました。この球根は浮田元会長が慰霊の島から持ち帰られたものだそうで、しばし南の碧い海に思いを馳せました。

三十年経て 浜木綿いかにと問う友



服部くにえさんに
(晝間志津子)

百歳のオトウチャンへ、 今書く手紙

村田恵子（千葉県）



父・津久井秀夫（所属部隊・111設営隊・戦没地・タラワ）
母・津久井艶子（妻・平成21年12月10日没・91歳）
長女・村田恵子（71歳）

八月はずつしりと心に来るものがある月です。今年はひと際思いの詰まったものになり、日本人なら忘れられない日もまた巡ってきました。

父の手紙が印刷された新聞がボロボロになって見つかり、つい先日父の実家から送られてきました。津久井秀夫実母キンの死後数十年、誰も開けたことのない仏壇の引き出しの奥から茶色に変色した紙が出てきたものです。2011年7月に発見。茶色の封筒はその角から破片になってボロボロとこぼれ散りました。

字もまだ読めない子供にいつかは読む

と思ったのか、優しい気持ちで書いてくれた若い父親の思いは十分に伝わりました。懐かしい父に返事を書いてみたいくなりました。実はほとんど実像としての感触を覚えておりません。残念です。

父から母への手紙

津久井艶子殿

天高く馬肥ゆるの候とはなったが、とはいうもののそっちだけの話だがみな変りはないか。先日待望の写真在中の手紙と秋田の伊東さんから便りがあったというハガキとを一緒に受け取った。石原さんより伊東さんのほうが早かったわけだ。4か月も違ったんだが、今度の手紙と同じでアベコベだ。

まあ何にしても二人とも元気で結構だ。写真確かに受け取った。嬉しかった

親子3人で写った唯一の写真。



よ。二人で撮ったのでどれだけ良かったかわからない。尚お正月に皆で写したのを送ってくればまだ良かったよ。確かに恵子いささか固くなったな。しかし大きくなったな。御苦労。俺の写真もいろいろあるが許可が下ったら送るよ。

こちらのお話を一ツ二ツ。土人は皆煙草が好きだ。男の子はもちろん女の子でも十歳から十二、三歳位のがスパスパ皆旨そうにふかす。恵子くらいのがチヨコチヨコ出てきて、あぶなっかしい手つきで



昭和 18 年 5 月 26 日撮影。恵子四歳六カ月。

受け取ってスーッと吸い込んでチヨイと顔をしかめて煙を出しながらニヤツと笑うナンテ云うところはまったくおどろいちゃふよ。よく新聞雑誌の現地報告にある通りだ。したがって土人との果物、手用品等の交換はタバコが主だ。又今日も雨だ。二百十日の内地はどうだらうと思つて居る。

父から私への手紙

ケイコへ

ケイコノシヤシント オサカナト
 ダンゴト ハタノエヲ ミマシタ ケイ
 コハ オカンチャンノイフコトヲ ヨク
 キイテ ヨイコニナルデスヨ
 ネンネノオバアチャンヤ オジイチャ

ン オバアチャン タダオニイチャ
 ン エイコチャンニオトウチャンガ ヨ
 ロシクトイッテクダサイ オトウチャン
 ハ コンドリヒゲヲハヤシマシタ ハナノ
 シタモ アゴモ ホホモ デス チヨウ
 ド クマサンノ ヨウデ ケイコガミタ
 ラ キットビツクリ スルデセウ ケ
 イコナクカナ ケイコハ ソンナヨウム
 シデハナイネ ケイコガヨイコニナルヨ
 ウ オトウチャンハ イツモ カミサマ
 ニ オガンデイマス。
 (1943年秋に書かれたもの。同年11月23日玉碎)。
 こちらからの写真は5月26日撮影。戦地までは3、4か月かかった模様。

私から父への手紙

手紙はカナ文字で書きましたが、ここでは漢字と平仮名に致しました。

恵子はお返事を書かずにいるうちに71歳になりました。今年は2011年になります。今日は7月18日、祭日です。海の記念日と言うのだそうです。そんな記念日知らなかったーと言われるかもしれ

ません、私も忘れていたけれど、新しい祭日ね。

海の記念日かー、おとうちゃんが遠い海の島で玉碎と言う恵子の知らない言葉で、サヨナラしたのに、ケイコは良くわからなかった。ただ周りで「名譽の戦死、名譽の戦死」と威張つて言うので、恵子も、うちだつて、おとうちゃん、戦死したんだよーと威張つて、離れのお部屋の格子窓によじ登つて大声で言った。その時の「ネンネのおバアチャン」のお口を開けたまま、じーっと私の顔を見ていた眼、今でも覚えている。カリエスで寝たきりだった優しいひいおばあちゃんはお布団に寝たまま何も言わず、いつまでも私を見つめていた。

おとうちゃんの誕生日は8月12日だと言うことを初めて知りました。8月は終戦記念日(おとうちゃん、知ってた?)15日よ。そしてお母ちゃんの誕生日は8月19日。両親が8月に生まれて、戦争の終わったのが8月で、11月は「10日、23日」、恵子の誕生日とお父ちゃんの「居なくなつた日」ね。11月25日というのが正式発表だそうです、本当のその日は



タラワ島慰霊時の母(私と同じ71歳)

23日ですって。

思い出さないうち分、恵子は淋しく思ったことはありません。大きくなつて学校も卒業して、母親だけでは就職もハシメあるよと言われたのに、ナーニそんなもん、あたし全然感じたこと無かつたもん、と言つたことは、実は本当でした。英語使う仕事だつたから、本当なら敵の言葉なのかしら、でも戦争前のおとうちゃんの仕事は神戸の「弘南商会」という貿易会社で本当に一番楽しい時代だつたと聞いています。

スラバヤに本社があつて、そのときの可愛いがつていたN. K. ビスワスさんのニホン語の手紙、大事にとつてあつたでしょ、一緒に働いていたのはお父ちゃんのお兄いちゃんだった。とても仲良し

で二人とも輝いていたでしょ。ビールを向いて飲んで二人の顔、双子みたいですよ。写真の中では若いまま、笑つたまま時が止まつている。

今やつとわかつたこと、それはあまりに悲しくて凄くことだったので考えないようにしてきてしまつた。それで悲しくもなかつたのだし、泣くこともなかつた。考えなければ悲しくもないものね。きつと蓋をしたままここまで来てしまつたのです。

蓋をしてあることも気がつかなかつた。あのときなぜ絶対にお母ちゃんの前では泣いてはいけないのだ、と決めてしまつたのかわからない。自分のことを考える時間がやつてきて、それも短くなつてきたのか、このごろお父ちゃんが恋しい。懐かしくてたまらない時があるの。ケイコに書いてくれたたつた一通の南の島からのお手紙、今になって何回も読んではナツカシクテ懐かしくて、やつと涙がぼろぼろといっぱい出てきました。

「ケイコ」という名前が7回書いてあります。今まで泣かないで(泣けないで)来てしまいました。ごめんね おとうち

さん。私にもちゃんとオトウチャンがいたことやつとわかりました。守つてくれてありがとう。神様をお願いして、ケイコは幸せに守られていたのだと思う。苦しかつたことが多かつたけれど、無事に年をとりました。

お母ちゃんが生きているうちに言つてあげられたらよかつたのに、ケイコはお母ちゃんに優しくできませんでした。これもおとうちゃん、ゴメン。私たちの時間はとても苦しいものでした。それはオカアチャンの苦勞、本当の苦勞をお母ちゃんほほとんど口にしないうで、ケイコはのんきのまま大きくなりました。

「恵子にはなんでも好きなことをさせてやつてくれ」とお父ちゃんが言つていと聞いて、ふーん、と思つただけ。自分の一番欲しかつた自由が手に入らなかつた(ように思えて)苦しかつたのです。自由、それは責任を果たしてからということ、当たり前だつたのに。おかあちゃん自分の力で出来るだけはしました。言い訳をせず、説明をせず、親と家のた

めに弟妹のぶんまでしてしまった、我慢、我慢の一生で、子供のためだけに生きてしまった。これは後に残る子供にとつては自分がない人生だったことは（実はそれだけではいけないので）悲しく苦しいことです。

でも、おとうちゃんとの約束は果たしましたね。私は今、ただありがとうと言いたいです。

村田恵子より

結び

今まで父親のことを口にするのはなぜか悪いこと、あまり話題にしてはいけないことのように感じて（本当はそうでもなかったのですが）長いこと封印してきました。全く泣かなかったように思います。

当時はたくさんのお出来事があり過ぎて、母の実家での居候生活の中で感情を恐らく殺して過ごしてきたようですが、今やっとそんなに手の届く近い過去にあったこと、なかなか、自分の大切な人なのに遠い遠い人感じます。恐らく母の

実家に戻り、厳しい祖父母のもとで日中は働きに出ていた母に心配をかけることは子供ながらに（父を戦場に送ったのが2歳半、そのまま死別したのが4歳半、父の記憶はありません）出来ないことを感じていたものと見えます。

当時、祖父母は長男を名古屋の大空襲で亡くし（勤務先の三菱工場防空壕への直撃弾）長男の嫁も死亡、娘婿は戦死、末息子は戦場へと苦しい時代に続いて戦後は農地改革でほとんどの土地を取られて苦しい時代を耐えました。祖父がそのために病気になったところを見ると、厳密には、耐えたとはいえなかったのかもかもしれませんが、当時を知る人たちは周りにいなくなりました。

子供や孫は遠い昔のお出来事であるだけでなく、想像することが難しいことのようにですが、私にはやっと心の中で解決？と言うよりは長い間の疑問が（泣けなかった理由が）氷解した感があります。生前の母ともっと話しておけばよかった、聞いておきたいことがあったという感慨は良くあるありきたりの気持ちでもあります。

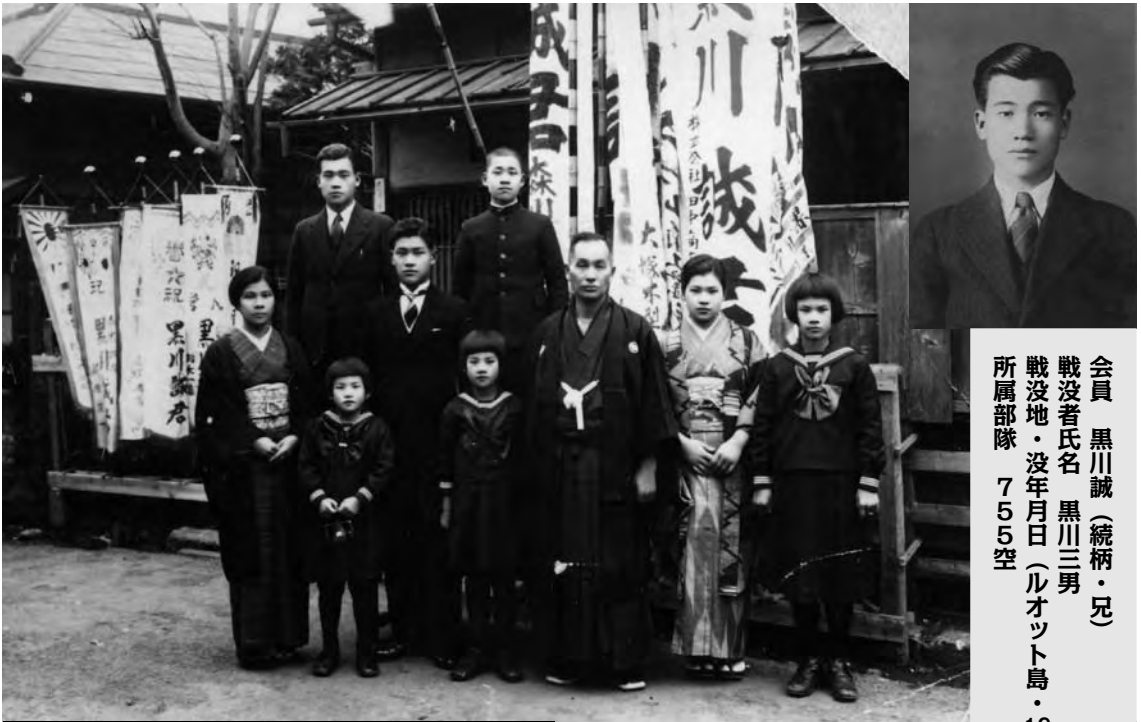
終り

マーシャル方面遺族会

MIBFA

THE MARSHALL ISLAND WAR-BEREAVED FAMILIES ASSOCIATION OF JAPAN

<http://mibfa1926.com>



会員 黒川誠（続柄・兄）
 戦没者氏名 黒川三男
 戦没地・没年月日（ルオット島・19 / 2 / 6）
 所属部隊 755空

思い出写真館（一枚の写真）

古いアルバムの中から思いがけず懐かしい写真が出てきた。それは小生（21歳）が陸軍の兵隊として現役入隊前日に撮ったものである。両親も若かったが我等兄妹が全員揃っている本当に懐かしい時代であった。現代の世相では想像もつかないであろう祝入隊の幟や旗が家の前に堂々と誇らしげに立てられている。この幟や旗は、親戚、友人、知人より贈られたものである。既に戦時下にあった日本は、現役で入營するもの、召集令状で出征するものが次第に多くなって行く時代であった。家族全員で撮った写真はこれだけである。写真データ：昭和14年1月7日撮影。戦没した三男は後列左端。前列左から母ツネ、四女芳子、三女喜代子、父黒川清一郎、長女節子、次女イネ子、二列目が誠、後列左が三男、四男直吉。（黒川誠）



マーシャル方面の新聞記事はありますか？

三男の戦死を報じる新聞がボロボロになって残っていました。父が残しておいてくれたのだと思います。皆様の手元にある当時を偲ぶ新聞や印刷物をご提供下さい！（黒川誠）

平成24年度～25年度行事予定表

マーシャル方面遺族会

年	月	日	曜	開始時間	場 所	行 事
24	1	2	月		靖国神社	平成 25 年度 慰霊祭申込み
24	1	2	月		靖国会館	平成 25 年度 総会 直会の申し込み
24	1	15	日	午前 10 時	平塚橋会館	本部だより 25 号の発送他
24	3	11	日	午前 10 時	平塚橋会館	平成 24 年度 慰霊祭の準備会議
24	3	31	土		靖国神社	平成 24 年度 慰霊祭 総会 直会
24	4	22	日		靖国神社	春季例大祭当日祭
24	5	13	日	午前 10 時	平塚橋会館	本部だより 26 号の編集他
24	5					千鳥ヶ淵墓苑拝礼式 期日未定
24	6	10	日	午前 10 時	平塚橋会館	本部だより 26 号の校正他
24	7	15	日	午後 2 時	靖国神社	永代神楽祭命日祭 (マーシャル方面遺族会)
24	7	29	日	午前 10 時	平塚橋会館	本部だより 26 号の発送
24	8	15	水		日本武道館	全国戦没者追悼式
24	8	15	水		文京ホール	東京都戦没者追悼式
24	9	16	日	午前 10 時	平塚橋会館	本部だより 27 号の編集他
24	10	14	日	午前 10 時	平塚橋会館	本部だより 27 号の校正他
24	10	18	木		靖国神社	秋季例大祭当日祭
24	10					沖縄戦没者追悼式 (東京都遺族連合会)
24	11	3	土			現地慰霊巡拝 (～ 9 日)
25	1	2	水		靖国神社	平成 26 年度 慰霊祭の申し込み
25	1	2	水		靖国会館	同 上 総会 直会 の申し込み
25	1	13	日	午前 10 時	平塚橋会館	本部だより 27 号の発送他
25	3	17	日	午前 10 時	平塚橋会館	平成 25 年度 慰霊祭の準備会議
25	3	31	日		靖国神社	平成 25 年度 慰霊祭 総会 直会

役員会本部会議室(平塚橋会館) TEL03-3783-6849

(照会書表)

充員召集應召員旅客運賃後拂證

官 氏 名 海軍豫備

乗車(船)區間 自 歸至

乗車(船)等級 一等

運賃 金

運賃 金

乗車(船)月日 昭和 年 月 日

發行應 海軍省人事局

運賃支拂處 海軍省經理局

(照会書表)

充員召集令狀

現住地 司令部

海軍豫備少尉 岡野 良之

右充員召集ヲ命ズ

左記ニ依リ參著スベシ

到著年月日時 昭和十八年一月二十日午後一時

到著地(處) 司令部

海軍大臣



1967年タラワを慰霊の旅のときの浮田信家氏。透き通るような青い海、こんな美しい海で戦いが続いたとは思えません。遺骨収集慰霊には島の人々が協力してくれました。私は同行しましたが、浮田さんの終始真剣な態度には頭の下がる思いでした。(徳原徳子)

はがき通信

お元気ですか？

- ①お元気ですか？
- ②差し支えなければお歳は
- ③ご家族の状況
- ④心に残る思い出
- ⑤「本部だより」に対するご意見
- ⑥趣味、お稽古ごとなど」
- ⑦当会へのご要望、その他